

平成 26 年 1 月 23 日 00154 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【武道館情報】モンゴル御一行館内観覧

1月19日(日)の午前9時頃、JICA青年研修事業地域保健医療実施管理コースの一環として北見市を訪れていたモンゴル国の医療・保健関係者の一行が北見市武道館を見学しました。一団は通訳を含む14名で来館し、道場①・多目的道場・道場②・道場③・弓道場の順に見学しました。道場③では北見空手協会ちびっこ空手、弓道場では北見市弓道会が稽古をしており、その様子を熱心に写真に収めていました。最後に道場①では、北見練心会西尾指導部長が指導する少年団の稽古や、子供達の元気な姿に見入っていました。また、北見練心会会長でもある佐藤施設長の指導のもと、畳に触れたり受身などを体験していました。(山本)



連載 中国「老子」の思想

三十八章 仁義礼智は虚飾

徳の上なるものは、徳であろうと努めない。だからこそ、真の徳となる。徳の下なるものは、徳であろうと努める。だからこそ、徳でなくなる。

徳の上なるものは、徳であろうと作爲せず、徳の名を得ようとしめない。徳の下なるものは、徳であろうと作爲したうえ、徳の名を得ようとする。

仁の上なるものは、仁であろうと作爲するが、仁の名を得ようとはしない。

義の上なるものともなれば、義であろうと作爲したうえ、義の名を得ようとする。

礼の上なるものに至っては、みずから礼であろうと作爲するだけでは事足りず、ひとにまで礼を強制する。

したがって、以下のようにいえるだろう。「道」にのっとりとする「徳」が現れるのは、無爲自然の道が失われた後であり、「仁」が現れるのは、徳が失われた後であり、「義」が現れるのは、仁が失われた後であり、そして「礼」が現れるのは、義さえも失われてしまった後である。

そもそもこの礼たるや、人の本性が忘却されてはじめて生ずるのであって、乱のはしりにほかならない。「智」に至っては、道から見ればうわべの飾りであって、愚のはじまりにほかならないのだ。

志操堅固な人間は、本性を守って虚飾を捨てる。つまり、仁義礼智を顧みず、ただ「道」にのっとるのみである。原文:上徳不徳、是以有徳。下徳不失徳、是以無徳。上徳無爲而無以爲。下徳爲之而有以爲。上仁爲之而無以爲。上義爲之而有以爲。上禮爲之而莫之應、則攘臂而扔之。故失道而後徳、失徳而後仁、失仁而後義、失義而後禮。夫禮者、忠信之薄、而亂之首。前識者、道之華、而愚之始。是以大丈夫處其厚不居其薄、處其實不居其華。故去彼取此。三十九章に続く